



【2年生】水泳の授業がスタートしました。気持ちいい！



ひ：人や生き物、持ち物を大切にしが
が：頑張り（目標に向かって）
し：幸せになる野市東小（みんなが）

香南市立野市東小学校

所在地 香南市野市町中ノ村770

電話 0887-54-2622

子どもとのコミュニケーション

のとり方について

梅雨に入り、大人も子どもも頭が痛くなったり、イライラしたりする日があるかと思います。日頃から本校教職員には、子どもたちの自尊感情（自己肯定感など）を育てるために、「禁止言葉」や「注意言葉」ばかり投げかけないようにと伝えています。生徒指導等の場面では、使わざるを得ないケースもありますが、子どもに対して叱責や注意等、長時間続けることは、子どもにとって苦痛以外の何物でもありませんので、絶対にないよう注意していきます。

先日の市所属長会（保幼小中の所属長が出席）の中で、福祉事務所の方から子育て（幼少期～低学年）の参考となるお話がありましたので、お伝えします。

<子どもに積極的に使いたいコミュニケーション>

①繰り返す

子どもの適切なセリフを繰り返すことで、子どもが会話の主役となり、自分の話を聞いて理解（肯定）を示してくれることが子どもに伝わります。

例：「赤いリンゴを描いたよ」⇒「本当だね、真っ赤なリンゴを描いたんだね」

②行動を言葉にする

子どもの適切な行動に対して、その行動を言葉で表現します。そのことで、自分の行動に興味・関心を示していることが子どもに伝わり、自分の行動がよい行動だと認識（学習）する機会となり、行動に意識をもつことができます。

例：本を棚に戻している行為に「お片付けてくれてるんだね」「いつも整頓ありがとう」

③具体的にほめる

子どもの好ましい行為や姿を具体的にほめる。よい行動を増やす効果や、繰り返すことによる行

動の定着化が期待でき、子どもも保護者・教職員（大人）もいい気分になりよい関係が築けます。

例：「友達に〇〇を貸してあげたんだね、えらいね」「ずっと〇〇の練習をしているんだね」

<子どもに対して避けたいコミュニケーション>

①命令や指示

自分（ほとんど妻です）も4人の子育てを経験しましたが、命令・指示の押しつけをかなりしていたと反省させられます。子どもの主体性を奪うことにつながり、達成感・意欲を損なう原因となります。

例：「早く〇〇しなさい」「〇〇してないからダメ」「こうしたら、もっとよくなるよ」

②不必要な質問

子どもの考えを中断させ、集中を切らせてしまうことや、反対しているようなニュアンスを与えてしまうこととなります。

例：「何を考えているの」「もうやめるの」「〇〇してどういうつもり」

③禁止や否定的な表現

「〇〇はやめて」「〇〇はダメ」といった否定や禁止は、不愉快な相互作用を生じると言われています。「散らかさないで」「言い訳してもダメ」「すぐに泣くのはやめて」など、**大人がイライラした気持ちの時に発する否定的な言葉で、問題が改善することはなく、かえって子どもの否定的な行動を増やしてしまうことにつながり、親子での感情的なやり取りになりがちです。**全ての禁止・否定を肯定文（例：「〇〇してほしいな。〇〇してくれるとうれしいな、助かるな」）に変換するよう努めましょう。

以上のコミュニケーションを、低学年だけでなく高学年まで、教職員も留意してまいりますので、ご家庭の方でもご協力をよろしくお願いします。

-----< 切り取り線 >-----

※ご意見・ご感想をお願いします。 ()年()組 保護者氏名()